



命題1 「顧客は一般的に命の次に大切なお金を投じて、投資信託、外貨預金、変額年金保険などを金融機関から購入している」

命題2 「それらの金融資産は毎日のように価値が変動する」

命題3 「その価値が変動する要因のほぼ8~9割以上はマーケットの変動による」

命題4 「しかし多くの顧客は、どのマーケットがどのように自分が保有している資産の価値を変動させているかについての自覚がない場合が多い」

命題5 「よしんば、どのマーケットの動きによって自分が保有している資産の価値が変動しているかを概念的に知っているにせよ、その動きを定量的に把握しているクレースはまれである」

命題6 「以上のようない金融資産を保有している顧客は、潜在的に（あるいは明瞭に意識したうえで）どのマーケットの動きがどの程度自分が保有している資産の価

なぜ今「マーケットリテラシー」か。改めて考えてみよう。

命題7 「しかし、これらの顧客はマーケットの動きを定量的に測るだけの時間コストを負担する余裕がないか、もしくはその能力がないことが多い」

命題8 「であるなら、顧客が保有している金融資産の価値が変動している理由を説明できなければなりません。その場合、中心的なマーケットの動きを説明するに際しては、最低限の数値情報を用いなければ顧客に対する訴求力はない」

命題9 「動きを説明するに際して、数値が含まれていない情報はどういカゲンなものはあるまい（動きを説明するのに一切のデータ、数値が含まれていない情報はない）」

AとBではどちらの情報が有意か?

さて、もう少し具体的に言ってみよう。以下のAとBではどちらの情報のほうが有意か。

●ドル円相場の中期的な動きについて

A 「昨年は米ドルが相当上げましたね」

B 「今年6月下旬には一時124円まで米ドルは上げましたが、現在は106円程度ですから、15%程度下落したことになりますね」

●日経平均株価の今年に入つてから比較的短期の動きについて

A 「日経平均も今年に入つて相当売られたときに比べればそこそこ上がりましたね」

B 「日経平均は昨年3月中旬に1万1800円を割りましたが、その後は1200円台後半ですものね」

顧客の金融資産の価値が変動している理由を分かりやすく説明できるか?

## 数値情報で視覚イメージを喚起しマーケットの動きをリアルに語る

直近の極大値と極小値を明確に意識して説明する

関東地区ではもうとも聴取率が高いTBSラジオ（95.4kHz）のコピーは「聞けば、見えてくる」だ。とても秀逸なコピーだと思う。

「我々は聴覚を刺激するメディアしか持たないが、聴覚メディアを使駆使して、聴取者の視覚に訴えますよ」というメッセージだ。そして優秀な人の条件（特徴）の1つに「見えるような話をする」

の時から見れば昨今の1万3000円台というのは1500円程度水準を切り上げたことになりますね」

●今年に入ってからの原油価格の上昇ピッチについて

A 「年初からの原油価格の上昇ピッチはとても速いですね」

B 「年初早々1バレルあたり100ドルを突破した後、7月上旬には一時145ドルまで上げて、今は120ドル台後半ですものね」

という要素がある」とを。さて、以上の3つのテーマについてAのコメントからは何らかの視覚的なイメージが喚起されるか?おそらくーだ。それに對して、Bのコメントはぼんやりした姿ながらもある種のチャートを思い浮かべることが可能だ。明らかにAよりもBのほうが、視覚野に訴えかける要素を持つのだ。

そして言うまでもなくその理由は「アバウトでもいいからデータをして語らしめている」点にある。数字情報と言うものは、何らかの視覚的なイメージに結びつきやすいのだと思う。

今回は具体的な1つのテーマを提示するにとどめようと思う。それは「マーケットの動きを語るに際しては、直近の極大値と極小値を明確に意識したうえで説明を行うこと」ということだ。

グラフには代表的なマーケットの、昨年年初以来のデイリーベースの動きを示しておいた。参考にしていただければうれしい。



File.031